Tohto University

Reflection on the Elderly Nursing Practice Ⅰ Curriculum in 2020

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 内野, 良子, 堀之内, 若名, UCHINO, Ryoko, HORINOUCHI, Wakana メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.50818/00000100

©東都大学2021

【実践報告】

2020年度高齢者看護学実習Ⅰを振り返って

Reflection on the Elderly Nursing Practice I Curriculum in 2020

内野　良子　　堀之内　若名
Ryoko UCHINO　Wakana HORINOUCHI

要　旨

目的：COVLD-19の感染拡大によって，臨地実習が中止となり，急遽，学内実習とオンライン実習に変更となった．今後「新しい高齢者の看護学実習のスタイル」を検討するにあたり課題を明らかにすることにある．方法：実習スケジュールモデルの変更や学内実習の事前準備，実習施設との調整，実習環境に分けて検討を行った．結果：実習目標は達成されたが，なじみの環境で行うことの心地よさから，臨地実習への関心が低下したことや新たな人間関係づくりの課題が明らかとなった．結論：臨地実習に行けなかった学生が臨地で実習を行うための方策を検討することが急務となる．

キーワード：高齢者看護，看護実習，高齢者，施設実習，看護学生

1．はじめに

高齢者看護学実習Ⅰでは，2020年10月5日～2021年1月29日まで，5クール81名の3年次の学生を対象に学内実習とMicrosoft Teams（以下Teamsと略）とZoomを用いたオンライン実習を行った．2020年度は，COVID-19感染拡大によって今までの生活スタイルや意識の変換が求められ，「新しい生活」を模索している．当実習においても臨地で行う実習の見直しが求められ，検討の結果，臨地実習は学内実習に変更となった．本報告は，実習を学生の協力の下，改善しながら進めた経過を振り返り，今後の「新しい高齢者看護学実習のスタイル」を構築するにあたり課題を明らかにするためのものである．

倫理的配慮は，報告書内で個人や実習施設名等が特定されないよう配慮した．

2．実習概要

本実習の目的は，以下の通りである．

・　介護老人保険施設で療養している高齢者を対象に，介護予防や健康維持・増進を図るため多職種による生活支援がどのように行われているかを学ぶこと
・　高齢者及び家族に対する施設の果たす役割と看護について理解を深めること
・　地域で生活するあらゆる健康レベルにある高齢者を対象とした生きがい活動，健康増進，介護予防等の事業を通して，そこにおける看護の役割を学ぶこと

これらの目的を達成するため，実習目標として，以下の6項目が挙げられている

1．施設の役割，機能，地域の特徴について理解することができる．
2．施設を利用する高齢者の身体・心理・社会的特徴を多面的に理解することができる．
3．受け持ち利用者の加齢変化・疾病・障害を理解することができる．
4．受け持ち利用者の生活の質の維持・向上に向け，計画を立案し援助することができる．
5．地域で生活する高齢者を対象とするケアにおける保健・医療・福祉の連携の必要性を理解し，その中での看護職の役割について理解することができる．
6．高齢者ケアにおける倫理観を学ぶ．

実習対象者は，幕張ヒューマンケア学部看護学科3年次生であり，実習単位は，3単位135時間である．変更前の実習場所は，1週目は社会福祉法人千葉市社会福祉協議会いきいきプラザ・いきいきセンター15事業所である．2・3週目は介護老人保健施設，また

東都大学幕張ヒューマンケア学部看護学科
E-mail：ryoko.uchino@tohto.ac.jp

は，特別養護老人ホームの7施設である．実習方法は，社会福祉法人千葉市社会福祉協議会いきいきプラザ・いきいきセンターにおいて，施設職員の指導のもと，施設を利用する高齢者を対象とした実習を行う予定であった．介護老人保健施設・特別養護老人ホームにおいて，受け持ち利用者1名を対象とした看護過程を展開する実習を行う予定であった．

3．方法

COVID-19感染拡大により臨地実習が学内実習へと余儀なく変更される中，実習目標を達成すべく行った方法を，1）実習スケジュールモデルの再構築と「15事業所及び7施設」との事前調整，2）学内実習室（実習室C）の整備，3）実習の具体的な進め方（感染予防対策を含む）に分けて記載する。

1）実習スケジュールモデルの再検討と「15事業所及び7施設」との事前調整

① 1週目：社会福祉法人千葉市社会福祉協議会 いきいきプラザ・いきいきセンター

変更前実習スケジュールモデル（表1）では，臨地実習を3日間連続で行い，集団のアクティビティケアを学生が企画運営する内容であった．実習場所が，千葉市内全域の「いきいきプラザといきいきセンター」を使用し，学生配置は，学生実習の担当者が行うことで調整をしていた．COVID-19対応の実習スケジュールモデル（表2）では，8月初旬に実習施設の実習担当者と打ち合わせを行った．打ち合わせの詳細は以下のとおりである．

ア） いきいきプラザ・いきいきセンター実習担当者へお願いしたこと

・ オリエンテーションを動画で実施したい．施設内や利用者の様子などの撮影をしたい．
・ 内容を録画して，毎回使用したい．
・ 最終カンファレンスの開催に出席をお願いしたい．
・ 学生の考えたアクティビティをオンラインで行う予定．
・ 同意の取れた利用者数名と学生のコミュニケーションを行う機会を作る．

イ） 打ち合わせの結果

・ オリエンテーションについては，後日，録画のため訪問することとなる．
・ 利用者へのインタビューも可能であるが，オリエンテーションの録画に含むこと

になる．

・ 最終カンファレンス時のアクティビティケア発表については，業務との兼ね合いで難しいため，曜日を変更し，カンファレンスをテーマカンファレンスに変更する．また，通信環境が整わないため，教員が，当日機器を持参し施設を訪問し，Teamsの会議でカンファレンス開催とする．

② 2週目・3週目：介護老人保健施設・特別養護老人ホーム実習

変更前実習スケジュールモデル（表3）では，臨地実

表1 変更前実習スケジュールモデル

【社会福祉法人 千葉市社会福祉協議会 いきいきプラザ・いきいきセンター】

曜日	実習内容	方法
月	【学内】実習オリエンテーション，実習準備と自己学習	施設の役割・機能，実習施設のある地域の特徴を調べる
火 水 木	【臨地】	各事業所によるオリエンテーション 事業に参加・学生の主体的活動
金	【学内】記録のまとめと報告会 2週目以降のオリエンテーション	各施設での学びの共有，記録物の提出 報告会は学生主体で実施

※実習時間：9時から16時30分
※カンファレンス：学生が運営し，15時30分より16時まで
※記録類は，すべて手書き
※実習の服装は，指定のポロシャツ，紺パンツ，名札と上履き

習を８日間行い，１名の受け持ち利用者に関わらせていただきながら，生活の場で看護過程を展開する予定であった．高齢者が疾患や障害を持ちながら安定して暮らすための看護の役割の理解を深めること，施設の多職種から利用者の情報収集を行うことで，ケアチームの一員として看護職の役割を学ぶ機会としていた．学生は7か所の介護老人保健施設と特別養護老人ホームどちらかの施設で２週間実習し，最終日に学内で，施設の特性・役割を共有する．2020年１月には，各施設とスケジュール調整も済んでいた．COVID-19対応の実習スケジュールモデル（表４）では，８月初旬に実習施設を訪問し，学内実習の場合の協力をお願いし，７か所の施設から快諾をいただいた．打ち合わせの詳細は以下の通りである．

表２　COVID-19対応の実習スケジュールモデル

【社会福祉法人　千葉市社会福祉協議会　いきいきプラザ・いきいきセンター】

曜日	AM	PM
月	【学内】10時 オリエンテーション：中央いきいきプラザより動画 図書館にて自主学習（60分以内）	【学内】視聴覚教材視聴 カンファレンス：14時30分～ テーマ：オリエンテーションより，いきいきプラザが介護予防の中で果たす役割について考える．
火	【自宅】9時：ミーティング いきいきプラザの利用者に効果的なアクティビティケアを考える．適宜Gでオンライン打ち合わせ	【自宅】 【Teamsオンラインカンファレンス】15時30分～ テーマ：アクティビティケア 対象者の明確化，内容，期待される効果
水	【自宅】9時：ミーティング いきいきプラザの利用者に効果的なアクティビティケアを考える．適宜Gでオンライン打ち合わせ	【自宅】15時30分 アクティビティケアの準備 カンファレンス：15時30分～ 対象の明確化，内容，期待される効果
木	【学内】10時 アクティビティケアの実施準備 （実習施設単位）	【学内】 アクティビティケアの実施
金	【自宅】9時：ミーティング 記録のまとめ	【学内】14時 15時～最終カンファレンス 記録の提出と2週目からのオリエンテーション

※学内実習時間：10時から15時
※学内実習の服装：指定のポロシャツ，紺パンツ
※自宅の時間：各施設GのTeamsで9時にミーティング，15時30分カンファレンス

表３　変更前実習スケジュールモデル

【介護老人保健施設・特別養護老人ホーム】

曜日		実習内容	実習方法
1週目	月火水	施設での実習	施設・フロアのオリエンテーション，受け持ち利用者へ挨拶
			受け持ち利用者の情報収集 ケアの見学
	木	学内での実習	受け持ち利用者の情報整理・看護計画作成，看護技術練習
	金	施設での実習	中間カンファレンス
2週目	月火水木	施設での実習	看護計画の実施・評価
			最終カンファレンス
	金	学内での実習	実習報告会 記録の提出と個別面談

表4　COVID-19対応の実習スケジュールモデル

【介護老人保健施設・特別養護老人ホーム】

曜日	AM	PM
1週 月	【学内】10時：オリエンテーション ①実習施設の師長，②施設の専門職等 事例紹介：施設の方に事例となる利用者を紹介していただく．録音しない．	【学内】～15時 事例の情報整理 カンファレンス：14時30分～ テーマ：施設が地域の中で果たす役割について
火	【学内】10時：ミーティング 情報収集（教員から） 学生間で行動計画の発表 看護過程展開	【学内】～15時 技術演習①体位，移送，移動 カンファレンス：14時30分～ テーマ：入所施設の特徴を考慮した環境調整．
水	【自宅】9時：ミーティング 看護計画立案	【自宅】カンファレンス：15時30分～ 利用者のできていること，生活障害，疾患が生活にどのように影響しているか
木	【学内】10時：ミーティング 情報収集（教員から） 学生間で行動計画の発表 看護過程展開	【学内】～15時 技術演習②例フットケア，ハンドケア 【ZOOM】入所者との対話
金	【学内】10時：ミーティング 教員から今日の利用者の様子 学生間で行動計画の発表	【学内】～15時 看護計画の実施 中間カンファレンス：14時～ 【学内】or【ZOOM】師長や指導者が参加予定
2週 月	【学内】10時：ミーティング 情報収集（教員から） 学生間で行動計画の発表	【学内】～15時 看護計画の実施，学生は患者役と看護師役担当 カンファレンス：14時30分～ 看護計画の共有，ケアの実践を通して
火	【学内】10時～：ミーティング 情報収集（教員から） 看護計画立案修正，実施	【学内】カンファレンス：14時30分～ 利用者を取り巻く人々の役割
水	【自宅】9時～：ミーティング 看護計画立案修正	【自宅】カンファレンス：15時30分～ 看護計画立案修正，最終カンファレンス準備
木	【学内】10時：ミーティング 情報収集（教員から） 学生間で行動計画の発表	【学内】～15時 看護計画の実施 最終カンファレンス：14時～　2週間の学び 【学内】or【ZOOM】師長や指導者が参加予定
金	【自宅】 記録整理	【学内】 記録の提出と個別面談

ア）　施設へお願いしたこと

・　オリエンテーションをリモート参加（事前録画）で可能か．直接大学に出向いていただきたい．

・　施設内の様子や利用者の生活環境を撮影することは可能か．

・　受け持ち利用者の選択：大学側から学生に事例を提示する，事例に近い利用者を紹介していただき学生が利用者のイメージを持てるようにする．

・　2週目木曜日に中間カンファレンスの参加をお願いをする．看護過程は教員提共モデルで実施するが，中間カンファレンスで意見を頂きたい．

・　高齢者とリモートで会話をする．

イ）打ち合わせの結果

・　オリエンテーション：大学に出向く施設は4施設あり，Zoomでの参加は3施設であった．

・　施設内の様子や利用者の生活環境の撮影は，1施設のみ可能であった．他の施設は，オリエンテーション時に動画やパワーポイントで紹介することとする．

・　施設に事例を予め配布することで，オリエンテーションや中間カンファレンス，最終カンファレンスにおいて施設に近いケースを紹介して話すことは可能である．

・　中間カンファレンスと最終カンファレンスの参加は，オリエンテーションと同じ方法で可能である．

・　高齢者とリモートで会話をすることは，個人情報の問題があり，難しいという施設が5施設であった．2施設は，「調整をしてみます」との返答であった．

2）学内実習室（実習室C）の整備

① 実習室Cの準備

高齢者領域の実習室は，公衆衛生看護学領域，在宅看護学領域，精神看護学領域の4領域合同で使用しているため，今回の学内実習にあたって他領域との調整が必要となった．また，準備室がないため，ロッカーに収納できない各領域の備品が出されたままとなっていた．看護技術を実施するための備品も不足しており，他領域との調整が必要となった．実習室Cを使用する他3領域より，高齢者看護学領域の使用に関する同意が得られ場所の確保はできた．実際にケアを行うために，居室を作成することになり，施設の居室をイメージしながら，ついたてで仕切られた3部屋を準備した．ベッドと床頭台，オーバーテーブル，体位変換枕のセットを基礎看護学領域・成人看護学領域の協力により借用することができた．看護技術の備品も同様に借用しながら進めた．通信環境においては，有線LANにつなぐことで，通信障害の予防に努めた．教員の通信機器の操作技術に関しては，周囲の協力を得ることで何とか対応できた．

3）実習の具体的な進め方（感染予防対策を含む）

感染対策は，「東都大学幕張キャンパス入構にあたっての申し合わせ事項」2020.6.18に準じて実施した．健康チェックシートで体調確認と非接触型体温計で測定，視診とマスクの着用，手指消毒剤と物品消毒を準備，演習中のドアの開放，接触するケア時には，フェースシールド使用等を実施した．昼食をはさむため，実習室の他に講義室3-Fを確保した．学内実習日は，いきいきプラザ・センターの実習を2.5日，施設の実習で7.5日とし，学内実習で10時から15時までの電車通勤ラッシュ時間帯をさける時間帯とし．自宅実習日は9時から16時までとした．出席確認については，学内実習では出席確認可能であった．自宅の場合は，Teamsに各クールのチームを作成し，その中に各施設のチャネルを作成した．朝と午後にカンファレンスを行うことで確認を行った．学内実習は，臨地実習の流れを学内で行うことを想定した．1週目の場合，アクティビティケアの実施準備については，学内実習と自宅実習のTeamsでグループワークで進めた．企画から終了までを学生が主体的活動となるように，教員は学生の提案を支持しながら，対象者の選択や内容について，地域の中で高齢者がどのような機関の連携の中で暮らしているのか，相互の助け合いなどを学生が意識できるように指導・助言を行った．2週目以降の介護保険施設の場合は，予め教員が考えた事例に基づいて看護過程の実際を学ぶ．看護過程の事例について，各施設に2事例を準備し，1事例の施設間の重なりをクールの離れた2施設までとして8事例作成した．施設には事前に事例をお知らせし，中間・最終カンファレンスで学生への助言の参考としていただくように依頼した．学生は，事例を中心に看護過程の内容を展開しながら，看護計画の実施と評価まで行うこととした．行動計画の発表は，学生が指導者役を行い，ケアの実施について，お互いに役割を決めて利用者役と学生役を交互に行う．教員は，学生がそれぞれの役割を推進できるように必要な物品の準備・助言を行い，学生が自らの考えを表現できるように支持的姿勢で接するように心がけた。

4．結果

1）実習初期（1クール目），2）実習中期（2～4クール目），3）実習終期（5クール目）に分けて報告する．

1）実習初期（1クール目）

高齢者看護学実習は，実習開始が10月であり領域実習で一番遅い開始であり，1クール目の学生は，高齢者の実習の情報がないまま望んでいるため，期待と不安が入り混じっている様子であった．教員は，実習場所や対象者のイメージができるように準備を重ねてきているが，学生への伝え方や実習指導者から実際の場でどのような方法で行われているかや実習指導者の高齢者看護の考え方を引き出すための促す方法などをに修正を加えながら望んでいる時期である．

1週目は，オリエンテーション録画がうまく流れないことや最終カンファレンスの音声が流れないなど，通信機器の操作に手間取った．アクティビティケアの実施は，カンファレンスの教員の助言や学生同士の話し合いによって，できる身体機能を活用して生活していることの理解が深まり，工夫がみられていた．他のグループの発表の時は，高齢者役で参加する時に，高齢者の疑似体験セットを使用して体験するなどを行っていた．2週目以降の施設実習では，施設の事や事例の状況が，想像もつかない様子が見られ，情報整理につながらない場面もあった．教員に積極的に質問をする学生，わからないことが表現できない学生と様々で

あったが，学内実習であるため，学生同士，教員と学生，教員間の相互作用が生まれ，わからないことを表現するようになり，カンファレンスで意見交換が行えるようになってきていた．1施設であったが，Zoomで施設の案内と利用者との会話を実施していただけた施設があったこと，2施設から看護師長のカンファレンスへの出席があり，助言をいただけたことが，事例や施設の理解を深く推し進めることに重要な役割を果たしていた．

1クール目の実習は，体調不良者もなく，15名の学生全員が参加できていた．学生は，3週目に入り，生活を支える予防的な看護の考え方があることを学ぶことができたと話し，他領域で気づけなかった看護の一面を語っていた．終了後，教員は，通信機器の操作確認を行い，施設の協力もあり，2クール目以降に備えた．指導面では，実習スケジュールモデルの内容変更はしないこと，アクティビティケアの計画の助言について，教員間で共有を行った．学生への事例からの情報収集時に事例の状況を申し送りとして伝える時のストーリーの考え方についても，意見交換を行い考え方の統一を図った．

2）実習中期（2～4クール目）

学内実習とオンラインを交えて実習を行った時期である．

学内実習であるため，学生間で話し合いながら進めることが多いため，主体的に実習を進めるグループでは，効果的な実習となり，学生間の関係も深まっていた．アクティビティケア発表と最終カンファレンス後の施設別の報告会は，何をどのように実施するかを学生が決めるため，他の人任せでは実習が進まないためお互いの意見のすり合わせによる合意形成が必要となる．時に激しくぶつかり合うこともあったが，実習終了頃には，お互いの意見の違いを認めるところまで変化をした学生もいた．半面，実習中，何も言わず語らずで,「つまらなかった.」と一言言い残した学生もあった．実習後半クールの学生が「病院実習に行くのが怖い．学内で楽しくできるならこっちがいい」と真剣に訴えていた．事例による看護過程の展開は，認知症のある事例では看護問題の表現に苦労をしていた．一つの動作の中のできることは何かを見極め，そのことを維持しながらできないところに働きかけていくことが，どういうことなのか悩んでいた．臨地からZoomで施設内の案内や利用者との会話を行うことができた施設は，1施設だけであったが，その時に利用者との会話や様子から，事例のイメージがつかめた様子が見られた．他の施設からは，看護師長からオリエンテーションやカンファレンスに直接参加していただき，施設の特性や利用者のかかわり方を事例を交えた説明を聞くことで，気づきのきっかけとなっていた．学生の体調面では，1名不調の訴えで早退者が出たが，受診の結果，風邪の診断であった．

教員の通信機器の操作も確実になり，いきいきプラザの最終カンファレンスは，双方向で会話が成立するまでになっていた．施設からのZoom参加も順調に行えるようになっていた．実習スケジュールモデルに変更なく，進めることとなった．教員間も，お互いに意見交換を行い，指導内容の情報共有を続けた．

3）実習終期（5クール目）

第2回目の緊急事態宣言が，1月7日に発令され，学生の学内入構が禁止となったため，全面オンラインとなった．そのために，実習スケジュールモデルを一部変更して実施することとなった．（表5）

実習記録は，該当実習のTeams内のファイルに個人フォルダを作成し，アップロードとダウンロードで教員とのやり取りをした．アクティビティケアの展開は，個人ワークで行い，実習施設ごとの発表とした．実習施設のオリエンテーションとカンファレンスは，Zoom・Teamsで行った．事例に関する情報を家族の気持ちをインタビューすることを追加して，学生がインタビューを行うことする．教員からの情報提供時に，事例のその日のエピソードを伝えて，学生が対応方法を考えることも実習内容に追加をする．学内実習の場合は，ケアの実施場面で事例の強みを生かしたかかわりについて話し合うことができたが，オンラインでは，日々変わる利用者の状況を意識する機会がないことから，日々の変化にも対応する狙いがある。教員は，今日の利用者の様子の後に，ケア場面として食事場面や排泄場面，睡眠，活動などから，エピソードを考えることとした．実習時間は，9時から16時までとした．学生は，オンラインとなったことで，戸惑いはあるが，実習の進め方の質問や事例に関する質問などをミーティングやカンファレンス，チャットで積極的に教員に質問をしていた．実習内容から，グループで話し合うことが必要な場面でも，Teamsを使って学生同士で話し合い，発表につなげることができていた．今までは，教員が仲介役となって，カンファレンスや話し合

表5　第2回目非常事態宣言を受けて変更点COVID-19対応の実習スケジュールモデル

5クール目

	AM	PM
1/12 火	【自宅】9時 オリエンテーション：中央いきいきプラザより動画	【自宅】　視聴覚教材視聴 カンファレンス：15時30分～
1/13 水	【自宅】9時：ミーティング 個人ワーク考えるアクティビティを考える.	【自宅】 【Teamsオンラインカンファレンス】15時30分
1/14 木	【自宅】9時：ミーティング アクティビティケアの準備　プレゼン準備	【自宅】12時～14時 アクティビティケア実施　一人15分質疑応答5分
1/15 金	【自宅】9時：ミーティング 記録の提出と来週に向けたオリエンテーション (事例アップ)	【自宅】 最終カンファレンスのオリエンテーション：15時 最終カンファレンス：15時～16時（Teams）
1/18 月	【自宅】10時：施設オリエンテーション（ZoomとTeams）	【自宅】事例の情報整理 カンファレンス：15時30分～16時
1/19 火	【自宅】9時：ミーティング 情報収集（教員から），家族の気持ちインタビュー	【自宅】～16時 カンファレンス：15時30分～
1/20 水	【自宅】9時：ミーティング 情報収集（教員から），家族の気持ちインタビュー、その日のエピソードから対応方法を考える	【自宅】～16時 カンファレンス：15時30分～
1/21 木	【自宅】9時：ミーティング 1月20日に準ずる	【自宅】～16時 カンファレンス：15時30分～
1/22 金	【自宅】9時：ミーティング 1月20日に準ずる	【自宅】 問題リストを13時までにPDFでファイルにアップ 中間カンファレンス：14時～15時 【自宅】or【ZOOM】師長や指導者が参加予定
1/25 月	【自宅】9時：ミーティング 1月20日に準ずる	【自宅】 自宅でもできる看護技術を実践 カンファレンス：15時30分～ 看護計画の共有，実践報告
1/26 火	【自宅】9時～ミーティング 1月20日に準ずる	【自宅】～16時 カンファレンス：15時30分～
1/27 水	【自宅】9時～ミーティング 看護計画立案修正	【自宅】カンファレンス：15時～ 看護計画立案修正，最終カンファレンス準備
1/28 木	【自宅】10時：ミーティング 11時～最終カンファレンス：2週間の学び 【自宅】or【ZOOM】師長や指導者が参加予定	【自宅】～16時 13時～Gワーク発表準備 15時～実習成果発表会
1/29 金	【自宅】 個別面談（Teams）	【自宅】 記録整理，記録の郵送にて提出（2月1日必着）

いを進めていたが，学生が，主体的に進めていた．学生からは，最後になって学生同士でお互いに意見を言いながら進められたことが良かったとか，実習を行いながら，今まであまり話さなかった人とも，話したり考えを聞く機会がありよかったと話していた．半面，周りは知っている人ばかりの実習なのでリラックスできたが，病院実習は，いろいろな人がかかわるので，うまく話ができるのか不安があるとも語っていた．またオンラインだけだったことから，すごく寂しかった．自分一人でやっているので，周りに誰もいないのは，不安になってくるとも話していた．

教員は，オンラインであるため，記録類のチェックやチャットの返信に対応するために，時間をさかれた．通信機器の操作は，Zoomがつながらないアクシデントの発生も何とか対応をすることができたが，まだまだ，わからないことが多いと実感した．

5．考察

以上の結果を実習目標に沿って考えることとする．

1）実習目標を達成することができたか

1．施設の役割，機能，地域の特徴について理解することができる．

学生の日常に，高齢者施設のなじみがないため，施設の役割・機能をイメージできていなかったため，実習施設の師長より，オリエンテーションを受けたことは，施設の役割と介護保険の理解を進めることができたと考える．

2．施設生活を送る高齢者の身体・心理・社会的特徴を多面的に理解することができる．

施設のオリエンテーションやカンファレンスの実習指導者からの助言によって，施設で生活する高齢者の日常生活の様子がイメージできた．スタッフが，要介護状態にあっても，高齢者の残存機能や意志決定を引き出すかかわりを行うことで豊かな生活が送ることができることを学ぶことができた．記録用紙の生活歴から，高齢者個人の人生を多面的にとらえる考え方を整理し，アセスメントの中で結び付け理解を深めることができた．

3．受け持ち利用者の加齢変化・疾病・障害を理解することができる．

いきいきプラザにオリエンテーション動画とアクティビティケアの発表時に疑似体験セットの装着等で積極的に理解を進める工夫を取ることができていた．この体験をすることで，事例の身体機能を想像することにつながって行ったと考える．

4．受け持ち利用者の生活の質の維持・向上に向け，計画を立案し援助することができる．

看護過程の実践において，はじめは，疾患中心にアセスメントを進めるが，教員の助言によって徐々に生活の視点に移り，できることとできないことに着目して，計画を立てることに気づいていた．学生たちは，高齢者の楽しい実習を思い描いて取り組んでいるが，形に現れない高齢者ケアの醍醐味に苦悩しながらも，カンファレンスの意見交換やケア実施場面の様子から，できることに着目することが，その人の強みとなり，尊重したかかわりとなることを理解しようと努力していたと考える．

5．地域で生活する高齢者を対象とするケアにおける保健・医療・福祉の連携の必要性を理解し，その中での看護職の役割について理解することができる．

いきいきプラザでのカンファレンスと実習施設の看護師長の説明，事例の看護計画の実施の際に看護職が単独でケアをするのではなく，高齢者を中心としたケアチームが存在することを意識できたと考える．

6．高齢者ケアにおける倫理観を学ぶ．

高齢者看護学実習Ⅰを通じて，実習施設のケアの説明や学生自身が実習を通して，胃ろうや認知症の方の意思決定など考える機会が多かったと考える．

2）課題

このように実習目標は，達成することができたと考えられるが，課題も数多く散見していることが，事前準備と実践結果から挙げられる．実習室の環境整備に関すること，通信機器の操作に即相談できる部署，学内実習の限界も否めないと考える．事例を展開し，学生の知識の範囲で広げられたとしても，実際に臨地がそのようになっているのか否か，或いは違いはどこから生じているのかなど深めていくことの限界を感じる場面がいくつもあった．学生にとって，臨地実習は，基礎看護学実習ⅠとⅡであり，知識不足の中で経験しているため，自身の臨地に関する誤った捉え方を修正する機会もないままとなっている．人間関係の構築では，なじみのない人と話すことに不安を訴える学生の姿もあり，臨地実習への関心が低下していることや人間関係づくりも課題として考えられる．今回の実習では，臨地から多大な協力があり，この関係を生かして，臨地と日常的につながる仕組みを検討し，安心して実習に臨める土台を考える必要がある．感染対策を行いながら，新たな臨地実習モデルの試みは課題となる．

6．今後に向けて

高齢者看護学実習Ⅱが，2021年5月10日より，予定されている．課題は，数多くあるが，臨地実習に行けなかった学生が臨地で実習を行うための方策を早急に考える重要性を強く感じる．

謝辞

今回の高齢者看護学実習1を学内で無事に終了できたことは，実習施設のご理解とご協力，関係する領域の先生方のご支援が大きいと考えます．改めて感謝申し上げます．

利益相反

本報告書における利益相反は存在しない．

参考文献

1）厚生労働省：新型異なウイルス感染症の発症に伴う看護師養成所における臨地実習の取り扱い等について，https://www.mhlw.go.jp/content/000642611.pdf（閲覧

日 2021.2.13)
2)　日本看護協会：看護実践情報，看護教員の皆さまへ，
https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/covid_19/faculty/index.html (2021.2.13)

受付日：2021年2月15日　受諾日：2021年4月2日